

序文

歯牙破折には様々なタイプがあり、それらは発生部位や範囲、方向等の違いからいくつかに分類される。各分類において最適な治療法や予後の見通しが大きく異なることが知られており、診断の間違いは適切でない治療法の選択につながり、結果としてその破折歯牙の寿命に直接影響を及ぼす事になる。そのような事から本書においてはまず歯牙破折の分類を明確化し、それぞれのカテゴリーにおいて、診査・診断・治療について説明を深めていく。

本書全体としては4章編成とする。まず第1章では世界の標準的なガイドラインと日本の現状を比較した場合に、日本独特の考えやアプローチが存在するのでその事について触れてみる。第2章、第3章では歯牙破折を大別する「垂直性歯牙破折」と「水平性歯牙破折」を取り上げる。垂直性歯牙破折については、臨床的な意思決定の基準を与えてくれる米国歯内療法学会におけるガイドラインに基づいた診査、診断、治療法を紹介する。水平性歯牙破折についてはほとんどの場合外傷に伴って発生するので、通常、口腔顔面の「外傷学」の中で取り扱われる。しかしながら本誌においては歯に関わる破折を広く網羅するという観点から、外傷学の一部であるこのパートを取り扱う事とした。最後に第4章では、実際に破折歯牙に遭遇した時の対応をイメージしていただくために、多くの症例を提示し臨床でのアプローチを見ていただく。本書が先生方の臨床に、少しでもお役に立てば幸いである。

石井 宏